

第640回建設技術講習会 現場研修事業の概要

1. 史跡高松城跡桜御門復元整備事業

高松市玉藻町

- 高松城は天正16（1588）年に生駒親正により築城が開始された城郭。
その後松平頼重・頼常により大規模な改修が行われ、明治を迎えるまで高松松平家の居城。
- 桜御門は三の丸に整備された御殿『披雲閣』の正門にあたる。
近代まで遺存しており、旧国宝（現在の重要文化財）に指定されることが内定していたが、昭和20年の高松空襲で焼失。
- 遺構としては礎石と両側の石垣が残るが、焼損が著しく、石垣の解体修理を行った。
- 門の復元については 古写真・古図・遺構・聞き取り調査・類例調査を基に復元設計を完了しており、平成31年度にしゅん工予定である。



2. 一般国道11号 大内白鳥バイパス改築工事（ICT施工）

東かがわ市伊座～小砂

- 一般国道11号は、徳島市を起点とし高松市を経て松山市に至る四国の3県都を瀬戸内沿いに連絡する延長約231kmの主要幹線道路で、経済の交流と地域発展の大動脈であるとともに、通勤・通学等日常生活に欠かせない生活道路としての役割ももつ重要な路線。
- 大内白鳥バイパスは、東かがわ市内の一般国道11号で発生している慢性的な交通渋滞や、それに伴う事故多発区間の解消、さらに交通流の円滑化によるアクセス性の向上などにより、地域の文化・経済・産業の発展に資することを目的とした延長約9.2kmのバイパス道路。
- 大内白鳥バイパスへの交通転換により、並行する現道の旅行速度の向上や渋滞緩和。現道の交通量の減少による交通事故発生件数の減少。医療施設への所要時間短縮により救命率の向上。新たな緊急輸送路の確保による災害時の確実な移動。
- 初の部分開通後、交通事故は約3割減少し、交通量は従前と比べて増加したが、現道のJR三本松駅前交差点の渋滞長は約半分に減少し、旅行速度が若干向上するなど効果が現れている。
- 平成28年12月9日には香川県内初となるICT施工を導入。



3. 香東川総合開発事業 柵川ダム建設工事

高松市塩江町安原上東

- 香東川は阿讃山脈を源とし、瀬戸内海に注ぐ延長約33km、流域面積 約113km²の香川県を代表する2級河川。
- 柵川ダムは香東川総合開発事業の一環として、2級河川香東川水系柵川の高松市塩江町安原上東に、多目的ダムとして建設。
- 治水、流水の正常な機能の維持はもちろん、高松市に対して水道用水として新たに1日最大9,000m³の取水が可能。
- 平成6年に代表されるような異常渇水時でも河川維持流量の補給を可能とし、緊急水補給として渇水被害を軽減。
- 平成26年10月にダム本体工事の契約を締結し、平成28年12月から本体コンクリート打設中。

